

楽しもう、読み聞かせ！～読み聞かせは耳からの読書です～

1. 読み聞かせの意義

- ①読み手と聞き手がともに本を楽しむことができる
- ②わかりやすい音声言語で耳を育てる
- ③視野を広げる

本は楽しいもの、そして人生を豊かにしてくれるものだと伝えたい

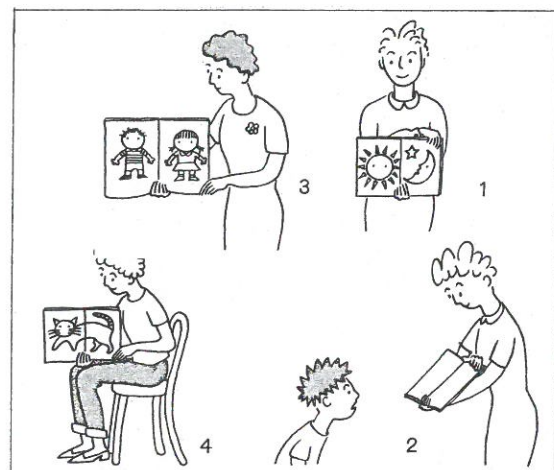
2. 読み聞かせによって育つ力

- ①身近な大人による読み聞かせで、コミュニケーションの場を広げ、人への信頼感や自己肯定感が養われる → **心を育む**
- ②わかりやすい耳からの言葉やそれに合わせた絵で、文章の表現の特徴に慣れる
豊かな語彙を使って、考え表現する
言葉をつなげて新しいものを組み立てる力（思考力） → **言葉を育む**
- ③お話を集中して聞く力（集中力）
言葉の世界を思い描き、自分や他人への理解を深める → **想像力を育む**
- ④活字や本への親近感、世界が広がり知的な好奇心につながる → **生涯読者へ**

ことばや文を理解する力は聞くことから

3. さあ、読んでみよう！

①持ち方



1. 文を読まなくてもいい場合
2. 本が持ち上がり絵が見えづらい
3. 児童が椅子に座っている場合
4. 児童が床に座っている場合

「えほんのせかい こどものせかい」

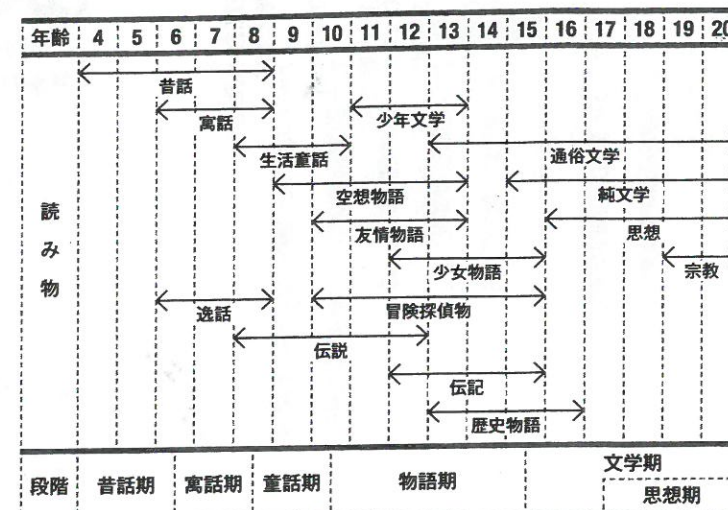
＊松岡享子著 p113

②読み聞かせのポイント → 島根県立図書館の資料を参考にしてください。

間が大事！言葉と絵を頭の中でイメージする時間をとってやる

③選書 自分が読んで伝えたいものが一番！

読書興味の発達段階



- [1] 昔話期 (4～6才)：時と所を限定しない空想の世界に、あらゆるものが生きて登場する話に興味をもつ。
- [2] 寓話期 (6～8才)：昔話の形式で、生活のルールを捕えやすく提供したものに興味をもつ。
- [3] 童話期 (8～10才)：現実取材して、これを想像で再構成したものに興味をもつ。この想像性は芸術的な情操の芽えと見られる。
- [4] 物語期 (10～15才)：人間関係の葛藤とその解決、冒険的なスリル、自然の開発や征服など行動的な物語りに興味をもつ。
- [5] 文学期 (15才～)：ロマンチズムと恋愛に興味をもつ。
- [6] 思索期 (17才～)：思索的な内容に興味をもつ。

阪本一郎ほか (1960)『学校図書館図説』岩崎書店p.295より

「鍛えよう読むチカラ 学校図書館で育てる 25の方法」桑田てるみ監修 明治書院 p17

☆読み聞かせに絵本を使う場合

利点 10分程度で済む(ほとんどの場合)

世代を超えてつながることができる

絵があることでイメージしやすい → 耳からの読書に最適

幼時からお年寄りまでわかりやすいように描かれている

→「絵本は、幼い子どものためのものではない」

科学絵本、知識絵本は使える！

絵本は大人になって読むと、生きることや命、愛について作品に秘められた深い意味が強く心に響くようになる。想像力を取り戻し、心を耕すためぜひ「座右の絵本」を！

「砂漠でみつけた一冊の絵本」 柳田邦男著

選書に迷われたときはいつでもご相談ください！

(その他の参考図書) 「親子読書アドバイザー養成講座テキスト」島根県立図書館 H26.6

「本を読む子」は必ず伸びる！ 樋口裕一著 「読書はパワー」ステューブン・クラッシュン著

「シニアから君たちへ 読み聞かせに託すこころのリレー」 リプリント・ネットワーク

「絵本の力」 河合隼雄、松居直、柳田邦男著 その他として H21～28 研修資料